

Dell Command | Update

バージョン 3.1.1 ユーザーズ ガイド



メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: Dell Command Update	4
Dell Command Update バージョン 3.1.2 の新機能.....	4
章 2: Dell Command Update バージョン 3.1.1 のインストール、アンインストール、およびアップグレード	5
対応オペレーティングシステム.....	5
Dell Command Update のダウンロード.....	5
Dell Command Update のインストール.....	5
サイレントインストール.....	6
Dell Command Update for Windows 10 のアンインストール.....	6
Dell Command Update for Windows 32 ビット バージョンのアンインストール.....	6
Dell Command Update のアップグレード.....	6
章 3: Dell Command Update の機能	8
アップデートのインストール.....	8
アップデートの選択.....	8
選択のカスタマイズ.....	9
依存関係のインストール.....	10
Windows の再インストールのためのドライバの詳細な復元.....	11
アップデート履歴.....	11
アップデート履歴の表示.....	12
システム情報の表示とエクスポート.....	12
アクティビティログ.....	12
アクティビティログの表示とエクスポート.....	12
ご意見をお聞かせください.....	13
章 4: Dell Command Update の設定	14
一般設定.....	14
アップデートソースの場所.....	15
アップデート設定.....	15
アップデートフィルタ設定の実行.....	16
設定のインポートまたはエクスポート.....	16
高度なドライバの復元の設定.....	16
BIOS.....	17
システムパスワード.....	17
BitLocker の一時停止.....	17
章 5: Dell Command Update コマンドライン インターフェイス	18
コマンドライン インターフェイス リファレンス.....	18
コマンドライン インターフェイスのエラーコード.....	26
章 6: サードパーティ ライブラリー	30

Dell Command | Update

Dell Command | Update は、1対1のスタンドアロンユーティリティーで、これを使用して Dell クライアントシステムを最新のドライバー、BIOS、アプリケーション、およびファームウェアでアップデートできます。

Dell Command | Update の利点は次のとおりです。

- Dell クライアントシステムのシステム管理とアップデートプロセスを単純化します。
- 使いやすい CLI として、ドライバーのインストールおよびアップデートの自動化に使用できます。
- 使いやすい GUI として、クライアントシステムに適切なアップデートを識別して適用するのに役立ちます。

その他の製品ガイドについては、dell.com/support/manuals を参照してください。

トピック：

- [Dell Command | Update バージョン 3.1.2 の新機能](#)

Dell Command | Update バージョン 3.1.2 の新機能

本リリースの Dell Command | Update の新機能および拡張機能は、次のとおりです。

- アプリケーションのインストール時間が改善されました。
- アップデートの有無の確認に必要な時間が改善されました。
- 自動システム再起動の問題に対応しています。
- アップデートの確認を実行するとグラフィカルユーザーインターフェイスの [最後のチェック] フィールドに表示される時刻がより正確になりました。
- アップグレード後に、設定がデフォルト値に戻されなくなりました。
- コマンドラインインターフェイスの `-silent` オプションが、`/importsettings` コマンドで機能します。
- 有効なアップデートスケジュールの設定中に、コマンドラインインターフェイスがエラーで終了しなくなりました。

Dell Command | Update バージョン 3.1.1 のインストール、アンインストール、およびアップグレード

このセクションでは、Dell Command | Update のインストール、アンインストール、およびアップグレードについて説明します。

Dell Command | Update:バージョン 3.1.1 には、2種類のダウンロードファイルがあります。

- Windows 10 RS1 ビルド#14393 以降でのみサポートされるユニバーサル Windows プラットフォーム バージョン (64 ビット オペレーティングシステム)
- Windows 32 ビット バージョン

トピック：

- 対応オペレーティングシステム
- Dell Command | Update のダウンロード
- Dell Command | Update のインストール
- Dell Command | Update for Windows 10 のアンインストール
- Dell Command | Update for Windows 32 ビット バージョンのアンインストール
- Dell Command | Update のアップグレード

対応オペレーティングシステム

Dell Command | Update 3.1.1 Windows 32 ビット パッケージは、次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Microsoft Windows 7 Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows 8 Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows 8.1 Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows 10 Ultimate (32 ビットおよび 64 ビット)

Dell Command | Update for Windows 10 (RS1 ビルド#14393 (x64)) 以降がサポートされます。


Dell Command | Update のダウンロード

最新バージョンの Dell Command | Update をダウンロードするには、次の手順に従います。

1. <https://www.dell.com/support/article/sln311129> にアクセスします。
2. 要件に応じて、ユニバーサル Windows プラットフォーム バージョンまたは Win32 バージョンのいずれかを選択します。
3. 「利用可能な形式」セクションで、[ファイルのダウンロード] をクリックします。

Dell Command | Update のインストール

Dell Command | Update をインストールするには：

1. Dell サポート サイトからダウンロードした.exe ファイルをダブルクリックします。
2. インストール をクリックします。
 **メモ:** Dell Command | Update をインストールするには、管理者権限が必要です。
3. ようこそ 画面で、次へ をクリックします。
4. ライセンス契約画面でライセンス契約の条件に同意しますを選択してから、次へ をクリックします。
5. インストールの開始画面で、インストール をクリックします。

6. インストール中に、Dell Command | Update 改善プログラムに参加するオプションがあります。
 - 参加する場合は、[はい、プログラムに参加します] を選択します。
 - 参加しない場合は、[いいえ、プログラムに参加しません] を選択します。
7. インストールの準備完了 ウィンドウで、インストール をクリックします。
8. インストール完了 画面で 終了 をクリックします。

サイレントインストール

Dell Command | Update のサイレント インストールを実行するには、コマンド プロンプトを使用して、管理者権限で次のコマンドを実行します。

```
Dell-Command-Update_XXXXXX_WIN_y.y.y_A00.EXE /s
```

オプションでインストール ログを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
Dell-Command-Update_XXXXXX_WIN_y.y.y_A00.EXE /s /l="C:\log path\log.txt"
```

Dell Command | Update for Windows 10 のアンインストール

次の処置を行います。

- **開始** をクリックします。
- [**コントロール パネル**] を選択して、[**プログラム**] または [**プログラムと機能**] (推奨) をクリックします。
- [Dell Command | Update] を選択して、[**アンインストール**] をクリックします。

または

- [**Windows の設定**] を開きます
- [**システム**] を選択し、[**アプリと機能**] をクリックします
- [Dell Command | Update] を選択して、[**アンインストール**] をクリックします。

コマンド プロンプトを使用して Dell Command | Update for Windows 10 をアンインストールするには、管理者権限で次のコマンドを実行します。 Dell-Command-Update_XXXXXX_WIN_y.y.y_A00.EXE /x

Dell Command | Update for Windows 32 ビット バージョンのアンインストール

次の処置を行います。

- **開始** をクリックします。
- [**コントロール パネル**] を選択して、[**プログラム**] または [**プログラムと機能**] (推奨) をクリックします。
- [Dell Command | Update] を選択して [**アンインストール**] をクリックします。

または、Windows 10 オペレーティングシステムでは、次の操作を実行します。

- [**Windows の設定**] を開きます
- [**システム**] を選択し、[**アプリと機能**] をクリックします
- [Dell Command | Update] を選択して [**アンインストール**] をクリックします

コマンド プロンプトを使用して Dell Command | Update for Windows 32 ビット パッケージ バージョンをアンインストールするには、次のコマンドを管理者権限で実行します。 Dell-Command-Update_XXXXXX_WIN_y.y.y_A00.EXE /x

Dell Command | Update のアップグレード

次の方法で、Dell Command | Update をアップグレードできます。

- **手動アップデート - dell.com/support** から Dell Command | Update 3.1.1 をダウンロードしてインストールします。詳細については、「[アップデートのインストール](#)」を参照してください。

新しいバージョンのインストール中、インストーラーはアップグレードを求めるプロンプトを表示します。[はい] を選択してアップグレードを続けます。

メモ: アップグレードは次のようにサポートされます。

- Windows 10 用の Dell Command | Update (ユニバーサル Windows プラットフォーム) は、バージョン 3.0 以降からバージョン 3.1.1 にアップグレードできます。
 - Dell Command | Update (Windows 32) は、バージョン 2.4 から 3.1.1 にアップグレードできます。
- **セルフアップデート** - アプリケーションがすでにインストールされている場合は、アプリケーションを起動し、[ようこそ] 画面の [チェック] ボタンをクリックしてアップデートを確認します。Dell Command | Update の新バージョンが公開されている場合、最新バージョンの Dell Command | Update が [推奨アップデート] の下にリストされます。そのアップデートを選択して、アプリケーションの新しいバージョンをインストールします。

メモ: アップグレード中、アプリケーションの設定は保持されます。

Dell Command | Update の機能

トピック：

- アップデートのインストール
- アップデートの選択
- 選択のカスタマイズ
- 依存関係のインストール
- Windows の再インストールのためのドライバの詳細な復元
- アップデート履歴
- システム情報の表示とエクスポート
- アクティビティログ
- ご意見をお聞かせください

アップデートのインストール

DELL システムでアップデートを確認してインストールするには、次の手順を実行します。

1. [ようこそ] 画面で、[チェック] をクリックします。
[アップデートのチェック] タスクが開始され、[アップデートのチェック] 画面が表示されます。
[アップデートのチェック] タスクには、次の内容が含まれます。
 - コンポーネントのアップデートのチェック
 - システムデバイスのスキャン
 - 使用可能なアップデートのチェック

アップデートのチェック 画面には、システムスキャンのステータスが表示されます。アップデートが見つかったと、Dell Command | Update によって、アップデートをインストールするためのプロンプトが表示されます。

アップデートが見つからない場合は、[使用可能なアップデートはありません] というメッセージが表示され、システム上のアプリケーション、ファームウェア、ドライバーが最新の状態であることが表示されます。[閉じる] をクリックして Dell Command | Update を終了します。

設定したアップデートの可用性と設定に基づいて、**使用可能なアップデートがありません** メッセージが表示されます。このメッセージは、次のようなシナリオで表示されます。

 - デフォルトのフィルターを変更して、フィルター基準に適合したアップデートが見つからない場合。フィルター基準を変更して利用可能なアップデートを取得します。
 - デフォルトの [アップデート フィルター] 設定を維持しており、使用できるアップデートがない場合。
2. [詳細表示] をクリックして、システムにインストールするアップデートを選択します。**選択のカスタマイズ** 画面が表示されず。
詳細に関しては、「[アップデートのカスタマイズ](#)」を参照してください。
3. 必要に応じて、アップデートのインストール後に Dell Command | Update が自動的にシステムを再起動するように設定するには、[システムを自動的に再起動する (必要な場合)] を選択します。
4. [インストール] をクリックして、選択したアップデートをシステムにインストールします。

① メモ: インストール中に [キャンセル] をクリックすると、Dell Command | Update は、すでに適用されているアップデートをロールバックせずに [ようこそ] 画面に戻ります。

アップデートの選択

[ようこそ] 画面で、[チェック] をクリックして、[アップデートのチェック] タスクを実行します。システムのアปเดตがある場合は、[選択したアップデート] 画面が表示されます。

アップデートの概要が、update type <x of y; z MB>の形式で見出しの横に表示されます (単位: メガバイト (MB))。

- 「x」はダウンロードするアップデートの数です。
- 「y」は使用できるアップデートの合計数です。
- 「z」は使用できるアップデートのサイズです。

重要度に基づいて、アップデートは、次のように説明されます。

- **重要なアップデート** — システムの信頼性、セキュリティ、および可用性の向上のために重要なアップデートです。
- **推奨されるアップデート** — システムにインストールすることが推奨されるアップデートです。
- **オプションのアップデート** — これらはオプションのアップデートです。
- **Dell ドッキングソリューション** — これらのアップデートは Dell ドッキングソリューション用です。

i **メモ:**

Dell ドッキングソリューションのオプションが選択されている場合:

- Dell ドッキングソリューション用のアップデートは、**選択のカスタマイズ** 画面では選択解除できません。
- **自動的にシステムを再起動 (必要な場合)** オプションが選択されており、クリアできません。
- システムは複数回再起動して、インストールを続行する場合があります。
- Dell ドッキングソリューションに含まれるアップデートがある場合は、1つまたは複数のカテゴリ (重要、推奨、オプション) が選択されて、選択解除できません。
- Dell ドッキングソリューション用に利用可能なアップデートがない場合は、Dell ドッキングステーションのオプションは表示されません。

次の場合、警告メッセージが表示されます。

- インストールすべきアップデートに、中間バージョンのユーティリティが必要な場合。アップデートに複数の依存関係がある場合、Dell Command | Update は最新バージョンをインストールしようとしています。このタスクを完了するには、複数のアップデートサイクルが必要になる場合があります。詳細については、「[依存関係のインストール](#)」を参照してください。
- 特定のアップデートは、電源アダプターがシステムに接続されるまでインストールできません。

選択のカスタマイズ

選択されたアップデート画面で **詳細表示** をクリックすると **選択のカスタマイズ** 画面が表示されます。この画面には、システムに適用するアップデートの選択に役立つコンポーネントの名前、サイズ、およびリリース日などの使用可能なすべてのアップデートの詳細情報が、その他の情報と共にリストされます。アップデートは、割り当てられている重要度に基づいてグループ化されています。






表 1. 選択のカスタマイズオプション

ユーザーインタフェース	説明
重要なアップデート (x / y, z MB)	システムに適用できる重要なアップデートを表示します。重要アップデートの選択を変更することもできます。アップデートには次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">● アップデートの名前。● ダウンロードに必要なバイト数の概算を表示するアップデートのサイズ。● アップデートのリリース日。● 詳細については、情報アイコンを参照してください。アイコンにカーソルを合わせると、情報が表示されます。● アップデートタイプとインストール要件に基づいて、アップデートの左側にアイコンが表示される場合があります。● アップデートの詳細ドキュメントへのリンクは、サポートサイトに記載されています。
推奨アップデート (x / y, z MB)	システムで使用可能な推奨されるアップデートが表示されます。アップデートには次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">● アップデートの名前。● ダウンロードに必要なバイト数の概算を表示するアップデートのサイズ。● アップデートのリリース日。● 詳細については、情報アイコンを参照してください。アイコンにカーソルを合わせると、情報が表示されます。● アップデートタイプとインストール要件に基づいて、アップデートの左側にアイコンが表示される場合があります。

表 1. 選択のカスタマイズオプション (続き)

ユーザーインターフェース	説明
	<ul style="list-style-type: none"> アップデートの詳細ドキュメントへのリンクは、サポート サイトに記載されています。
オプション アップデート (x / y、z MB)	<p>システムで使用可能なオプションのアップデートが表示されます。アップデートには次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> アップデートの名前。 ダウンロードに必要なバイト数の概算を表示するアップデートのサイズ。 アップデートのリリース日。 詳細については、情報アイコンを参照してください。アイコンにカーソルを合わせると、情報が表示されます。 アップデートタイプとインストール要件に基づいて、アップデートの左側にアイコンが表示される場合があります。 アップデートの詳細ドキュメントへのリンクは、サポート サイトに記載されています。
すべて選択	<p>インストール用の、重要、推奨、オプションのすべてのアップデートを選択します。</p> <p>メモ: インストール要件を満たしていない場合、一部のアップデートを選択できないことがあります。例えば、電源アダプターが接続されていない場合、または BitLocker が有効になっていても BitLocker の自動一時停止が有効になっていない場合などがこれに該当します。</p>

表 2. 選択のカスタマイズオプション

ユーザーインターフェース	説明
	このアイコンがアップデートの横に表示されている場合は、アップデート パッケージを適用するために電源アダプターをシステムに接続してください。これはノートパソコンまたはタブレット システム上の BIOS またはファームウェア アップデートの場合のみに限られます。
	このアイコンが BIOS アップデートの横に表示されている場合、システムで BitLocker が有効になっていることがわかります。このアップデートを適用するには、設定で [BitLocker を自動的に一時停止する] オプションを選択する必要があります。
	これをクリックすると、ツールヒント ウィンドウにアップデートパッケージについての追加詳細情報が表示されます。
	これをクリックすると、 dell.com/support のウェブページが開き、このアップデートパッケージに関する詳細が表示されます。
	アップデートの横にこのアイコンが表示されている場合は、それがドッキングソリューションのアップデートの一部であることを示しています。

アップデートの横にあるチェックボックスを使用して、アップデート パッケージを選択します。列の一番上にあるチェック ボックスを使用すると、[**選択のカスタマイズ**] 画面のすべてのアップデートの選択が切り替わります。

依存関係のインストール

Dell Command | Update は、アップデートパッケージを使用して、システムに対する最新のアップデートを判断します。アップデート パッケージには、BIOS、ファームウェア、ドライバー、アプリケーション、およびソフトウェアの拡張機能や変更が含まれています。通常、アップデートは自立していて、プリインストールと適用可能な依存関係を実行しますが、アップデートが次のように依存することがあります。

- 内部依存関係:** これらのアップデートは BIOS アップデートと同じタイプであり、特定の順序でインストールまたはアップデートする必要があるため、スキャンやアップデートが複数回必要になることがあります。

例えば、お使いのシステムにバージョン A01 の BIOS がインストールされているとします。バージョン A05 は利用可能な最新のアップデートですが、必要条件としてバージョン A03 が必要です。Dell Command | Update は、システムをバージョン A03 にアップデートしてから、バージョン A05 にアップデートします。

メモ: ユーザーによるシステムアップデートの開始後、1つまたは複数の利用可能な最新バージョンへのアップデートが完了するまでに、システムアップデートサイクルが複数回必要です。

- **相互依存関係:** コンポーネントのアップデートに異なるアップデートタイプの別の依存コンポーネントのアップデートが必要な場合は、選択したコンポーネントを推奨バージョンにアップデートする前に、依存コンポーネントをアップデートする必要があります。

たとえば、システムでファームウェアのアップデートが必要であるとします。システムのファームウェアをアップデートするには、先に、システム BIOS を必要最低限のバージョンにアップデートする必要があります。Dell Command | Update は、システムのファームウェアをアップデートする前に、システム BIOS を必要なバージョンにアップデートします。

メモ: アプリケーションがシステムアップデートを開始すると、そのシステムのアップデートサイクルが複数回実行され、1つまたは複数の利用可能な最新バージョンにアップデートされます。

- **メモ:** インストールするアップデートに依存関係がある場合、Dell Command | Update はアップデートプロセス中に情報アラートで通知を行います。

メモ: 非依存および相互依存アップデートは、内部依存アップデートの前にインストールされます。

Windows の再インストールのためのドライバの詳細な復元

新たにインストールされたオペレーティングシステムのシステム デバイス ドライバーをダウンロードしてインストールするには、次の手順を実行します。

1. [ようこそ] 画面で [[ここをクリックして完全なドライバー ライブラリーをダウンロードしてインストールする](#)] をクリックします。

メモ: システムのドライバー ライブラリーをダウンロードするプロセスは、自動化されています。

メモ: このプロセスでは、従量制のネットワーク接続を使用している場合、コストがかかる場合があります。

[[ドライバー復元の準備中](#)] 画面が表示され、ドライバーがインストールされます。インストール中に表示されるさまざまなステータスメッセージを次に示します。

- コンポーネントのアップデートのチェック。
- システム デバイスのスキャン — システムをスキャンし、システム情報を収集します。
- システム ドライバー ライブラリーの検索 - ダウンロードするシステム ドライバー ライブラリーを決定します。
- ダウンロードの開始 - ドライバー ライブラリーのダウンロードを開始します。
- ドライバーの抽出 - システム ドライバー ライブラリーがダウンロードされたら、システムへインストールするためにドライバーを抽出します。
- インストールの準備 — オペレーティングシステムでデジタル署名を検証し、復元ポイントを作成します。
- ドライバのインストール - インストール状態は x/y 形式で表示され、ここで「x」はインストールされているドライバの数、「y」は使用可能なドライバの合計数を示します。ドライバのインストール後にシステムを自動で再起動するには、**システムを自動的に再起動する (必要な場合)** チェックボックスを選択します。
- インストールの完了 — ドライバーのインストール結果は x of y successful の形式で表示され、「x」はインストールされたドライバの数、「y」は使用可能ドライバの数を示します。

このアクティビティーを終了するには、[[キャンセル](#)] をクリックして [ようこそ] 画面に戻ります。

2. ドライバーのインストール完了後、[[閉じる](#)] をクリックして [ようこそ] 画面に戻ります。

システム ドライバーを最新バージョンにアップデートする手順の詳細については、「[アップデートのインストール](#)」セクションを参照してください。

アップデート履歴

[[アップデート履歴](#)] 画面では、これまでにシステムにインストールされたアップデートの詳細を表示することができます。詳細には、アップデート名、アップデートタイプ、アップデートが最後にインストールされた日付、およびシステムにインストールされたアップデートのバージョンが含まれます。

アップデート履歴の表示

アップデート履歴を表示するには、次の手順を実行します。

1. ようこそ画面で、**アップデートの履歴**をクリックします。
[**アップデート履歴**] 画面は、メイン画面の左ペインにあります。
2. [**閉じる**] をクリックして、[ようこそ] 画面に戻ります。

システム情報の表示とエクスポート

システム情報を表示およびエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. ようこそ画面で、**システム情報**をクリックします。
[**システム情報**] 画面には、名前、説明、オペレーティングシステムのバージョン、BIOS、ドライバー、アプリケーションなどのシステムの詳細が表示されます。
2. [**エクスポート**] をクリックすると、システムの詳細が.xml形式で保存されます。
3. [**閉じる**] をクリックすると、[ようこそ] 画面に戻ります。

アクティビティログ

アクティビティログは、システムにインポートされたアップデートを表示し、エラーや問題を追跡するのに役立ちます。Dell Command | Update で生成されたアクティビティは、次のように分類されます。

- 通常 - 通常メッセージには、アップデートまたはエラーの細かな詳細情報が記述されています。
- デバッグ - デバッグメッセージには、アップデートまたはエラーの詳細情報が記述されています。

ActivityLog.xml は、C:\ProgramData\Dell\UpdateService\Log に.xml形式のテキストファイルとして保存されます。

ログのルート要素には、システムにインストールされている製品の名前とバージョンが含まれます。ルート要素の下の子要素は次のように表示されます。

表 3. ルート要素の下の要素

エレメント名	説明
<level>	アクティビティ ログのレベル
<timestamp>	アクティビティが作成されたときのタイムスタンプ
<source>	アクティビティを生成したアプリケーション操作
<message>	アクティビティの詳細情報
<data>	アクティビティの追加情報

アクティビティログの表示とエクスポート

アクティビティログを表示およびエクスポートするには、次の手順を実行します。


1. ようこそ画面で、**アクティビティログ**をクリックします。
アクティビティログ画面が表示されます。

デフォルトでは、表示されるアクティビティのリストは過去7日、15日、30日、90日間、1年間に実行されたアクティビティです。期間を設定するには、ドロップダウンリストから選択します。
2. ドロップダウンリストで、アップデートアクティビティを表示する日数を選択します。**過去15日**を選択すると、今日までの過去15日間に Dell Command | Update で実行されたアップデートアクティビティを表示できます。
 - ① **メモ:** ⓘ をクリックすると、アプリケーションエラーメッセージなどのメッセージログエントリに関する詳細情報を表示できます。この情報は、エクスポートされたログファイルでも利用できます。
 - ① **メモ:** エラーまたは障害ログエントリの横にある **注意** をクリックして、可能性のある破損または問題を回避する方法についての情報を表示します。

3. 日付またはメッセージ タイプ順に列の順序を変更または並べ替えるには、[日付]、[メッセージ]、または [詳細] の横の▼をクリックします。
4. [エクスポート] をクリックすると、アクティビティ ログが.xml 形式でエクスポートされます。
5. **保存** をクリックして変更を保存する、または **キャンセル** をクリックして前回保存された設定に戻します。
6. [閉じる] をクリックすると、[ようこそ] 画面に戻ります。

ご意見をお聞かせください

製品に関してご意見、ご希望がある場合は、[ようこそ] ページの左ペイン下部にある [**ご意見をお聞かせください**] リンク オプションをクリックしてください。

 **メモ:** ご意見を匿名で公開することもできます。

Dell Command | Update の設定

設定画面で設定およびカスタマイズできるのは、アップデートのダウンロードおよび保管の場所、アップデートのフィルタ、アップデートをダウンロードするスケジュール、インターネットプロキシ、設定のインポートまたはエクスポート、およびドライバライブラリのダウンロード場所です。この画面には、次のタブがあります。

- **一般** — アップデートをダウンロードして保管する場所、およびインターネットプロキシ設定の設定と変更の詳細については、「[一般設定](#)」を参照してください。
- **アップデート設定** — システムアップデートのスケジュール設定についての情報は、「[アップデート設定](#)」を参照してください。
- **アップデートフィルタ** — アップデートのフィルタオプションの変更と保存についての情報は、「[アップデートフィルタ設定](#)」を参照してください。
- **インポート/エクスポート** — 設定のインポートおよびエクスポートについての情報は、「[設定のエクスポートまたはインポート](#)」を参照してください。
- **高度なドライバの復元** — ドライバライブラリをダウンロードする場所の設定の詳細については、「[高度なドライバの復元の設定](#)」を参照してください。
- **BIOS** — BIOSパスワードをアプリケーション設定として保存する方法については、「[BIOS設定](#)」を参照してください。
- **サードパーティーのライセンス** - 作成時に使用されたオープンソースソフトウェアの認証を表示することができます。

デフォルトの**復元**をクリックすると、デフォルトアプリケーション設定に戻ります。

メモ: 管理者によってポリシーが適用された場合は、**デフォルトの復元** オプションは無効になります。

トピック：


- [一般設定](#)
- [アップデート設定](#)
- [アップデートフィルタ設定の実行](#)
- [設定のインポートまたはエクスポート](#)
- [高度なドライバの復元の設定](#)
- [BIOS](#)

一般設定

一般タブでは、ソースカタログの場所およびダウンロードの場所のアップデート、インターネットプロキシ設定の設定/変更、アップデート体験情報収集のDellに対する同意が可能です。

一般設定を行うには、次の手順を実行します。

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
設定画面が表示されます。
2. **ダウンロードファイルの場所** で、**参照** をクリックして、ダウンロードしたアップデートを保存するためのデフォルトの場所を設定するか、デフォルトの場所を変更します。
メモ: Dell Command | Update は、アップデートのインストール後、この場所からアップデートファイルを自動的に削除します。
3. **アップデートのソースの場所** の下で、**新規** をクリックして、アップデートをダウンロードする場所を追加します。詳細については、「[アップデートソースの場所](#)」セクションを参照してください。
4. 必要に応じて、インターネットプロキシ設定を行います。
 - 現在のインターネットプロキシ設定を使用するには、**現在のインターネットプロキシ設定を使用** を選択します。
 - プロキシサーバとポートを設定するには、**カスタムプロキシ設定** を選択します。プロキシ認証を有効にするには、**プロキシ認証を使用** チェックボックスをオンにして、プロキシサーバ、プロキシポート、ユーザー名、パスワードを入力します。**メモ:** ユーザー名とパスワードの資格情報は暗号化されて保存されます。
5. Dell 改善プログラムにオプトインするには、**一般**セクションの**ユーザーの同意**の下にある **Dell の製品およびサービスを向上する目的で、Dell が情報を収集し、その情報を使用することを許可します** オプションを選択します。
メモ: Dell 改善プログラムは、アプリケーションで実行される操作に関してデータを収集します。このデータは、Dell Command | Update の操作性向上のために役立てられます。

 **メモ:** Dell 改善プログラムは、個人を特定できる情報 (PII) は収集しません。

6. **OK** をクリックして変更を保存するか、または **キャンセル** をクリックして、設定を破棄してからよろこ画面に戻ります。


アップデートソースの場所

アップデートソースの場所には、設定されているすべてのアップデートソースの場所のリストが表示されます。

デフォルトの場所は、**downloads.dell.com** です。ただし、Dell Command | Update のソースの場所を複数追加してアクセスを試み、アップデートを確認することができます。

ソースの場所を追加するには：

1. **参照** をクリックします
2. ファイルの場所に移動して、catalog.cab ファイルを選択します。
3. **+** をクリックして、新しいソース場所を追加します。
4. ソースの場所のエントリに関連付けられている上下の矢印をクリックして、これらの場所に優先順位を付けます。
5. **x** をクリックすると、ソース場所へのパスがリストから削除されます。


 **メモ:** Dell Command | Update は、正常にロードされた最初のソースの場所を使用するか、そのカタログを作成します。Dell Command | Update は、リストされているそれぞれのソースの場所をロードしてそのコンテンツを集約することはありません。Dell Command | Update は、**Dell.com** サイトで利用できないソースの場所の署名はチェックしません。

アップデート設定

特定のスケジュールでシステム アップデートを自動的にチェックするように、Dell Command | Update を設定できます。

アップデートをチェックするためのスケジュールを設定するには、次の手順を実行します。

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
2. **設定** 画面で、**アップデート設定** をクリックします。
3. [**アップデートを自動的にチェックする**] > [**アップデートのチェック**] で、次のいずれかを選択します。
 - **手動アップデートのみ** - このオプションを選択した場合、Dell Command | Update はスケジュールされたアップデートを実行せず、このページのその他すべてのフィールドが非表示になります。アップデートを手動でチェックするには、[**よろこ**] 画面で、[**チェック**] をクリックします。
 - **自動アップデート** - このオプションを選択した場合、Dell Command | Update はシステムで自動アップデートを実行します。アップデートのチェックは3日ごとに実行されます。新しいアップデートが見つかった場合、[**アップデートが見つかったとき**] の設定により、実行されるアクションが決まります。
 - **週次アップデート** — このオプションを選択した場合、Dell Command | Update は週に1回システムでアップデートを実行します。[**時刻を選択**] と [**曜日を選択**] オプションでは、アップデートを実行する時刻と曜日を設定できます。
 - **月次アップデート** — このオプションを選択した場合、Dell Command | Update は月に1回システムでアップデートを実行します。[**時刻を選択**] と [**日を選択**] オプションでは、アップデートを実行する時刻と日を設定できます。

 **メモ:** 選択した日付が特定の月で使用できない場合、その特定の月の最終日にアップデートが実行されます。


アップデートが見つかったときに実行するアクションと表示する通知は、オプションで選択できます。このオプションは次のとおりです。

- a. **通知のみ** - アップデートがあり、インストール準備ができたときに通知します
- b. **アップデートをダウンロード** - アップデートがダウンロードされ、インストール準備ができたときに通知します
- c. **アップデートをダウンロードしてインストール** - アップデートがインストールされたら通知します

[**アップデートをダウンロードしてインストール (完了後に通知)**] を選択した場合は、システムを自動的に再起動させるまでの時間間隔を選択します。

4. [**OK**] をクリックして変更を保存するか、または [**キャンセル**] をクリックして、設定を戻してから [**よろこ**] 画面に戻ります。

アップデートをチェックするアクティビティをスケジュールした後でアップデートが使用可能になると、アップデートのリストが **インストールの準備完了** 画面に表示されます。

 **メモ:** Dell Command | Update を終了して、アップデートのスケジュールを実行します。

アップデートフィルタ設定の実行

[アップデートフィルタ] タブでは、アップデート フィルタ基準に基づいてフィルターを構成できます。

アップデートフィルタ設定を実行するには、次の手順を実行します。

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
2. **設定** 画面で、**アップデートフィルタ** をクリックします。
3. **ダウンロード対象** から次のいずれかのオプションを選択します。
 - **このシステム設定のアップデート (推奨)** — このオプションを選択して、お使いのシステムの設定に固有の利用可能なすべてのアップデートを取得します。
 - **このシステム モデルのすべてのアップデート** — このオプションを選択して、お使いのシステム モデルで利用可能なすべてのアップデートを取得します。
4. **アップデートのカスタマイズ** で、アップデート推奨レベル、アップデートのタイプ、デバイスカテゴリを選択します。
5. [OK] をクリックして変更を保存するか、または [キャンセル] をクリックして、前回保存された設定に戻してから [よろこそ] 画面に戻ります。

設定のインポートまたはエクスポート

[インポート/エクスポート] タブを使用すると、設定を.xml ファイル形式で保存できます。.xml ファイルを使用することにより、別のシステムに設定を転送したり、別のシステムからインポートしたりすることもできます。これらの.xml ファイルを使用して、組織内にインストールされている Dell Command | Update のすべてのインスタンスに共通した設定を作成できます。

設定をインポートまたはエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
2. **設定** 画面で、**インポート/エクスポート** をクリックします。
3. [エクスポート] をクリックして、Dell Command | Update の設定を.xml 形式でシステムに保存します。
4. [インポート] をクリックして、以前にエクスポートした設定ファイルから Dell Command | Update の設定をインポートします。
5. [OK] をクリックして変更を保存するか、または [キャンセル] をクリックし、設定に戻してから [よろこそ] 画面に戻ります。

高度なドライバの復元の設定

高度なドライバの復元 タブでは、新品または整備済みシステム用にドライバライブラリをダウンロードする場所を設定することができます。

高度なドライバの復元を設定するには、次の手順を実行します。

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
2. **設定** 画面で、**高度なドライバの復元** をクリックします。
3. [有効] をクリックして、[よろこそ] 画面の [Windows 再インストールのための高度なドライバーの復元] オプションを表示します。

メモ: この機能は、デフォルトで次のようになります。

- お使いのシステムに Dell Command | Update をインストールすると、[高度なドライバー復元再インストール] 機能が有効になります。
- Dell Command | Update が工場ですべてインストールされる場合、高度なドライバー復元再インストール機能が無効になります。
- システムでのドライバのインストール後、この機能は無効になります。

4. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **dell.com/support** サイトからドライバライブラリをダウンロードする (推奨)。
 - **指定されたドライバライブラリを使用します** : ローカルまたはネットワーク上の場所からドライバライブラリをダウンロードするには、**参照** をクリックして場所を指定します。
5. [OK] をクリックして変更を保存するか、または [キャンセル] をクリックして、前回保存された設定に戻してから [よろこそ] 画面に戻ります。

BIOS

システムパスワード

1. タイトルバーで **設定** をクリックします。
2. **設定** 画面で、**BIOS** をクリックします。
3. システムパスワード ウィンドウの **パスワード** フィールドに値を入力します。パスワード フィールドを表示するには、**パスワードを表示** をクリックします。
 - ① **メモ:** パスワード フィールドの値は、**設定** タブを閉じて再度開いた場合でも引き続き表示されます。
 - ① **メモ:** BIOS で [システム パスワード] が設定されている場合は、BIOS アップデートを実行するために同じパスワードが必要です。
4. **デフォルトの復元** をクリックして、パスワード フィールドが空欄であることを確認します。

BitLocker の一時停止

Dell Command | Update では、システムの起動ドライブで BitLocker 暗号化機能が有効になっていても、BIOS アップデートをインストールする機能がサポートされています。この機能は、BIOS のアップデート中に BitLocker を一時停止し、BIOS がアップグレードされると、BitLocker 暗号化を再開します。

Dell Command | Update では、BIOS 設定画面に [**BitLocker を自動的に一時停止する**] ためのチェック ボックスが提供されており、次の警告メッセージが表示されます。Warning: Automatically suspending BitLocker drive encryption must be executed in a secure environment to safeguard the drive security.

BitLocker が有効になっている場合は、次のオプションが適用されます。

- BIOS アップデートが利用可能で選択されており、[**BitLocker を自動的に一時停止する**] オプションがオンになっている場合、[**自動的にシステムを再起動 (必要な場合)**] オプションはオンになります。このオプションはデフォルトでは無効になっています。BIOS アップデートのインストール時に、BitLocker は一時的に停止され、BIOS アップデートが適用されます。BIOS やその他のアップデートをインストールすると、BIOS アップデートを完了するためにシステムが自動的に再起動し、BitLocker が再び有効になります。
- [**選択したアップデート**] 画面のリスト内に BIOS アップデートが存在する場合は、BitLocker アイコンがアップデートの左側に表示されます。
- [**BitLocker を自動的に一時停止する**] オプションをオフにすると、BIOS アップデートもオフ (無効) になります。
 - ① **メモ:** アイコンの上にカーソルを合わせると、メッセージが表示されます。This update is blocked because BitLocker is enabled on this system. If you want to install this update, please check Automatically suspend BitLocker in the BIOS settings pane.
- Bloperating システム アップデートをインストールする必要がある場合に、BitLocker を自動的に一時停止できるように、Dell Command | Update コマンドライン インターフェイスには、同等のコマンドライン オプション - `autoSuspendBitLocker=<enable|disable>` が用意されています。OS 起動ドライブで BitLocker が有効になっている場合、このオプションを無効にすると、BIOS アップデートのインストールがブロックされます。詳細については、「[Dell Command | Update コマンドライン インターフェイス オプション](#)」セクションを参照してください。

Dell Command | Update コマンドライン インターフェイス

Dell Command | Update は、バッチおよびスクリプト作成セットアップで使えるアプリケーションのコマンドラインバージョンです。

CLI を使用すると、リモート導入インフラストラクチャのアップデートを自動化できます。対話形式のユーザープロンプトを表示しない基本的なオプションが提供されますが、GUIバージョンの Dell Command | Update を使用して実行できるすべての機能が網羅されているわけではありません。

CLI を実行するには、**管理者**としてコマンドプロンプトを起動して、**%PROGRAMFILES%\Dell\CommandUpdate** に移動し、コマンドプロンプトで `dcu-cli.exe` コマンドを実行します。

Dell Command | Update で利用可能なコマンドとオプションに関して詳細情報を表示するには、`dcu-cli.exe /help` を実行します。

メモ:

- 一部のアップデートは、電源アダプタがシステムに接続されていなければインストールできません。
- 一部のアップデートでインストールを完了するために再起動が必要な場合でも、システムが自動的に再起動することはありません。

トピック:

- [コマンドライン インターフェイス リファレンス](#)
- [コマンドライン インターフェイスのエラーコード](#)

コマンドライン インターフェイス リファレンス

次の表には、Dell Command | Update で使用可能な CLI オプションに関する情報がリストされています。

CLI 構文は次のとおりです。

```
<command> -option1=value1 -option2=value2 -option3=value3...
```

メモ: コマンドを指定するときに、スラッシュの後にスペースを入れしないでください。

メモ: ファイルまたはフォルダーのパスにスペースがある場合は、オプション値を二重引用符で囲む必要があります。

表 4. Dell Command | Update CLI コマンド

CLI オプション	説明	構文	サポートされているオプション
/help または -help	使用方法に関する情報を表示します。 メモ: このコマンドとともに指定された他のコマンドは、すべて無視されます。	<code>dcu-cli.exe /help</code>	適用なし
/?	使用方法に関する情報を表示します。 メモ: このコマンドとともに指定された他のコマンドは、すべて無視されます。	<code>dcu-cli.exe /?</code>	適用なし
-?	使用方法に関する情報を表示します。 メモ: このコマンドとともに指定された他のコマンドは、すべて無視されます。	<code>dcu-cli.exe -?</code>	適用なし
/version	バージョンを表示します。	<code>dcu-cli.exe /version</code>	適用なし

表 4. Dell Command | Update CLI コマンド (続き)

CLI オプション	説明	構文	サポートされているオプション
	<p>① メモ: このコマンドとともに指定された他のコマンドは、すべて無視されます。</p>		
/configure	<p>サポートされているオプションの設定に基づいて、Dell Command Update を設定できます。</p> <p>① メモ: ここで渡されるオプションには永続性があり、システムではアプリケーションライフを通じて利用できます。</p>	<pre>dcu-cli.exe / configure - <option>=<value> Examples: dcu-cli.exe / configure - userConsent=disabl e</pre>	<pre>-importSettings -exportSettings -lockSettings - advancedDriverRe store - driverLibraryLoc ation -catalogLocation - downloadLocation -updateSeverity -updateType - updateDeviceCate gory -userConsent -biosPassword -customProxy - proxyAuthenticat ion -proxyHost -proxyPort -proxyUserName -proxyPassword -scheduleWeekly -scheduleMonthly -scheduleManual -scheduleAuto -scheduleAction -scheduledReboot -silent -outputLog -restoreDefaults - autoSuspendBitLo cker</pre> <p>相互に排他的なオプション</p>

表 4. Dell Command | Update CLI コマンド (続き)

CLI オプション	説明	構文	サポートされているオプション
			<p>これらのオプションは、以下に示す特定のコマンドでは使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> - importSettings、- exportSettings、- lockSettings <p>① メモ: このオプションは、-</p> <ul style="list-style-type: none"> outputLog、-silent <p>を除く他のオプションとは併用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> -scheduleAuto、- scheduleManual、- scheduleMonthly、- scheduleWeekly
/scan	<p>システム スキャンを実行して、現在のシステム構成のアップデートを判断します。</p> <p>① メモ: ここで渡されるオプションは、その時点での実行で1回だけ使用されます。</p>	<pre>dcu-cli.exe /scan -<option>=<value> Ex: dcu-cli.exe / scan dcu-cli.exe /scan dcu-cli.exe /scan - updateType=bios,fi rmware</pre>	<ul style="list-style-type: none"> -silent -outputLog -updateSeverity -updateType - updateDeviceCate gory -catalogLocation -report
/applyUpdates	<p>現在のシステム構成を対象として、すべてのアップデートを適用します。</p> <p>① メモ: ここで渡されるオプションは、その時点での実行で1回だけ使用されます。</p>	<pre>dcu-cli.exe / applyUpdates - <option>=<value> Ex: dcu-cli.exe / applyUpdates dcu-cli.exe / applyUpdates - silent dcu-cli.exe / applyUpdates - updateType=bios,fi rmware</pre>	<ul style="list-style-type: none"> -silent -outputLog -updateSeverity -updateType - updateDeviceCate gory -catalogLocation -reboot - encryptedPasswor d - encryptedPasswor dFile -encryptionKey - autoSuspendBitLo cker <p>必須オプション:</p>

表 4. Dell Command | Update CLI コマンド (続き)

CLI オプション	説明	構文	サポートされているオプション
			これらのオプションは、以下に示す特定のコマンドとともに指定する必要があります。 - encryptedPassword および- encryptionKey - encryptedPasswordFile および- encryptionKey
/driverInstall	新たにインストールしたオペレーティングシステムに、現在のシステム構成のベースドライバをすべてインストールします。 ① メモ: ここで渡されるオプションは、その時点での実行で1回だけ使用されます。	dcu-cli.exe / driverInstall - <option>=<value> Ex: dcu-cli.exe / driverInstall dcu-cli.exe / driverInstall - silent	- driverLibraryLocation -silent -outputLog -reboot
/ generateEncryptedPassword	暗号化された BIOS パスワードを生成します。	dcu-cli.exe / generateEncryptedPassword - encryptionKey=<in-line value> dcu-cli.exe / generateEncryptedPassword - password=<in-line value> - outputPath=< folder spath >	-password -outputPath -encryptionKey 必須オプション: これらのオプションは、以下に示す特定のコマンドとともに指定する必要があります。 -password および- encryptionKey

表 5. Dell Command | Update CLI オプション

CLI オプション	説明	構文	予想される値
- advancedDriverRestore	高度なドライバー復元機能をUIで有効または無効にする操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure - advancedDriverRestore=disable	<enable disable>
- autoSuspendBitLocker	BIOS アップデートの適用時に BitLocker の自動一時停止を有効または無効にする操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure - autoSuspendBitLocker=disable	<enable disable>
-biosPassword	暗号化されていない BIOS パスワードを入力する操作を、ユーザーに許可します。パスワードが入力されていない場合、または "" が入力されている場合、パスワードはクリアされます。メモ: 値は二重引用符で囲む必要があります。	dcu-cli.exe /configure - biosPassword="Test1234"	<password "">

表 5. Dell Command | Update CLI オプション (続き)

CLI オプション	説明	構文	予想される値
-catalogLocation	リポジトリ/カタログ ファイルの場所を設定する操作を、ユーザーに許可します。/applyUpdates に指定する場合、1つのパスのみを指定できます。	dcu-cli.exe /configure -catalogLocation=C:\catalog.xml	1つ以上のカタログ ファイルパス。
-customProxy	カスタム プロキシの使用を有効または無効にする操作を、ユーザーに許可します。 ① メモ: このオプションを有効に設定すると、すべてのカスタム プロキシ設定が検証されます。	dcu-cli.exe /configure -customProxy=enable	<enable disable>
-downloadLocation	特定の場所を指定してデフォルトのアプリケーション ダウンロードパスを上書きする操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure -downloadLocation=C:\Temp\AppDownload	フォルダーのパス
-driverLibraryLocation	システム ドライバー カatalogの場所を設定する操作を、ユーザーに許可します。このオプションが指定されていない場合、ドライバ ライブラリーはDell.com からダウンロードされます ① メモ: 機能するネットワークコンポーネントが必要です	dcu-cli.exe /configure -driverLibraryLocation=C:\Temp\DriverLibrary.cab	.cab 拡張子が付いたファイルパス
-encryptionKey	パスワードの暗号化に使用できる暗号化キーを指定する操作を、ユーザーに許可します。 ① メモ: 入力するキーは、空白を含まない6文字以上の文字列で、大文字、小文字、数字を含める必要があります。また、値を二重引用符で囲む必要があります。	dcu-cli /applyUpdates -encryptedPassword="myEncryptedPassword" -encryptionKey="myEncryptionKey" dcu-cli /generateEncryptedPassword -encryptionKey="myEncryptionKey" -password="myPassword" -outputPath=C:\Temp	<encryption key>
-encryptedPassword	生成に使用した暗号化キーとともに暗号化パスワードをオンラインで渡す操作を、ユーザーに許可します。 ① メモ: このオプションとともに、-encryptionKey を指定する必要があります。また、値を二重引用符で囲む必要があります。	dcu-cli /applyUpdates -encryptedPassword="myEncryptedPassword" -encryptionKey="myEncryptionKey"	<encrypted password>
-encryptedPasswordFile	暗号化パスワードをファイルで渡す操作を、ユーザーに許可します。 ① メモ: このオプションとともに、-encryptionKey を指定する必要があります。	dcu-cli /applyUpdates -encryptedPasswordFile=C:\Temp\EncryptedPasswordFile.txt -encryptionKey="myEncryptionKey"	.txt 拡張子が付いたファイルパス
-exportSettings	指定したフォルダーパスにアプリケーション設定をエクスポート	dcu-cli.exe /configure -exportSettings=C:\Temp	フォルダーのパス

表 5. Dell Command | Update CLI オプション (続き)

CLI オプション	説明	構文	予想される値
	<p>トする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションは、-outputLog、-silent を除く他のオプションとは併用できません。</p>		
-importSettings	<p>アプリケーション設定ファイルをインポートする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションは、-outputLog、-silent を除く他のオプションとは併用できません。</p>	dcu-cli.exe /configure -importSettings=C:\Temp\Settings.xml	.xml ファイル パス
-lockSettings	<p>UI の設定をすべてロックする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションは、-outputLog、-silent を除く他のオプションとは併用できません。</p>	dcu-cli.exe /configure -lockSettings=enable	<enable disable>
-outputLog	<p>コマンド実行のステータスと進行状況情報を特定のログパスに記録する操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /scan -outputLog=C:\Temp\scanOutput.log	.log 拡張子が付いたファイルパス
-outputPath	<p>暗号化パスワードファイルの保存先フォルダーパスを指定する操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /generateEncryptedPassword -encryptionKey="myEncryptionKey" -password="myPassword" -outputPath=C:\Temp	フォルダーのパス
-password	<p>暗号化パスワードを指定する操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションとともに、encryptionKey を指定する必要があります。また、値を二重引用符で囲む必要があります。</p>	dcu-cli.exe /generateEncryptedPassword -encryptionKey="myEncryptionKey" -password="myPassword"	パスワード
-proxyAuthentication	<p>プロキシ認証の使用を有効または無効にする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションを変更すると、すべてのカスタムプロキシ設定が検証されます。</p>	dcu-cli.exe /configure -proxyAuthentication=enable	<enable disable>
-proxyHost	<p>プロキシホストを指定する操作を、ユーザーに許可します。このオプションの値として空の文字列を指定すると、プロキシホストがクリアされます。</p> <p>① メモ: このオプションを変更すると、すべてのカスタムプロキシ設定が検証されます。</p>	dcu-cli.exe /configure -proxyHost=proxy.com	<FQDN IP address "> 完全修飾ドメイン名 (FQDN)

表 5. Dell Command | Update CLI オプション (続き)

CLI オプション	説明	構文	予想される値
-proxyPassword	<p>プロキシ パスワードを指定する操作を、ユーザーに許可します。このオプションの値として空の文字列を指定すると、プロキシパスワードがクリアされます。</p> <p>① メモ: このオプションを変更すると、すべてのカスタムプロキシ設定が検証されます。値は二重引用符で囲む必要があります</p>	dcu-cli.exe /configure - proxyPassword="my password"	<password "">
-proxyPort	<p>プロキシ ポートを指定する操作を、ユーザーに許可します。このオプションの値として空の文字列を指定すると、プロキシポートがクリアされます。</p> <p>① メモ: このオプションを変更すると、すべてのカスタムプロキシ設定が検証されます。</p>	dcu-cli.exe /configure - proxyPort=8080	<port number "">
-proxyUserName	<p>プロキシ ユーザー名を指定する操作を、ユーザーに許可します。このオプションの値として空の文字列を指定すると、プロキシユーザー名がクリアされます。</p> <p>① メモ: このオプションを変更すると、すべてのカスタムプロキシ設定が検証されます。</p>	dcu-cli.exe /configure - proxyUserName="john doe"	<user name "">
-reboot	システムが自動的に再起動します (必要な場合)。	dcu-cli.exe /applyUpdates - reboot=enable	<enable disable>
-report	適用可能アップデートのXMLレポートを作成する操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /scan - report=C:\Temp\UpdatesReport.xml	.xml ファイル パス
-restoreDefaults	デフォルト設定を復元する操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure - restoreDefaults	なし
-scheduleAction	アップデート検出時に実行されるアクションを指定する操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure - scheduleAction=NotifyAvailableUpdates	<NotifyAvailableUpdates DownloadAndNotify DownloadInstallAndNotify >
-scheduleAuto	<p>デフォルトの自動アップデートスケジュールを有効にする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: 自動アップデートは3日ごとに実行されます。またこのオプションは、次のオプションとは併用できません</p> <p>-scheduleManual -scheduleWeekly -scheduleMonthly</p>	dcu-cli.exe /configure - scheduleAuto	なし

表 5. Dell Command | Update CLI オプション (続き)

CLI オプション	説明	構文	予想される値
-scheduleManual	<p>自動スケジュールを無効にし、手動アップデートのみを有効にする操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションは、次のオプションとは併用できません</p> <p>-scheduleAuto -scheduleWeekly -scheduleMonthly</p>	dcu-cli.exe /configure -scheduleManual	なし
-scheduleMonthly	<p>アップデートのスケジュール時に月内の日付と時刻を指定する操作を、ユーザーに許可します。スケジュールした日付がその月の最終日よりも大きな数字であった場合、その月の最終日にアップデートが実行されます。</p> <p>① メモ: このオプションは、次のオプションとは併用できません</p> <p>-scheduleManual -scheduleAuto -scheduleWeekly</p>	dcu-cli.exe /configure -scheduleMonthly=28,00:45	Date of month[1-31],time[00:00(24 hr format, 15 minutes increment)]
-scheduleReboot	<p>アップデート適用後の再起動時間を分単位でスケジュールする操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /configure -scheduleReboot=5	<0 5 15 60> (Note:0=Never reboot)
-scheduleWeekly	<p>アップデートのスケジュール時に曜日と時刻を指定する操作を、ユーザーに許可します。</p> <p>① メモ: このオプションは、次のオプションとは併用できません</p> <p>-scheduleManual -scheduleAuto -scheduleMonthly</p>	dcu-cli.exe /configure -scheduleWeekly=Mon,23:45	day[< Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat >],time[00:00(24 hr format, 15 minutes increment)]
-silent	<p>コンソールのステータス情報と進行状況情報を非表示にする操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /scan -silent	なし
-updateDeviceCategory	<p>デバイスタイプに基づいてアップデートをフィルターする操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /configure -updateDeviceCategory=network,storage	[オーディオ、ビデオ、ネットワーク、ストレージ、入力、チップセットなど]
-updateSeverity	<p>重大度に基づいてアップデートをフィルターする操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /configure -updateSeverity=recommended,optional	[重要、推奨、およびオプション]
-updateType	<p>アップデートタイプに基づいてアップデートをフィルターする操作を、ユーザーに許可します。</p>	dcu-cli.exe /configure -updatetype=bios	[BIOS、ファームウェア、ドライバ、アプリなど]

表 5. Dell Command | Update CLI オプション (続き)

CLI オプション	説明	構文	予想される値
-userConsent	アップデート体験情報をオプションまたはオプトアウトでデルに送信する操作を、ユーザーに許可します。	dcu-cli.exe /configure -userConsent=disable	<enable disable>

BitLocker が有効になっている場合、以下が適用されます。

- autoSuspendBitLocker が**有効**になっており、BIOS アップデートが利用可能な場合、BIOS アップデートがインストールされている間に BitLocker はインストール プロセスの実行時に一時停止します。BIOS やその他のアップデートをインストールすると、BIOS アップデートを完了するためにシステムが自動的に再起動し、BitLocker が再び有効になります。アップデートの適用前に、次の警告メッセージがコンソールに表示されます。

警告：BIOS アップデートが選択され、このシステムの BitLocker が有効になっているため、BIOS アップデートを効果的に適用できるように、BitLocker はインストール時に一時的に停止されます。BIOS アップデートやその他のアップデートを適用すると、BIOS アップデートを完了するためにシステムが自動的に再起動され、BitLocker が再び有効になります。

- autoSuspendBitLocker が**無効**に設定されている場合、CLI は適用可能なアップデートから BIOS アップデートを削除し、残りのアップデートをインストールします。次の警告メッセージがコンソールに表示されます。

警告：利用可能なアップデートが1つ以上スキップされます。これらのアップデートをインストールすると、BitLocker によってシステムがロックされる可能性があります。この状況を回避するには、BitLocker の一時停止を有効にし、これらのアップデートのインストールをやり直してください。

コマンドライン インターフェイスのエラーコード

表 6. 一般的なアプリケーション リターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
0	コマンドは正常に実行されました	NA
1	操作の実行から再起動が必要でした	システムを再起動し、操作を完了します。
2	不明なアプリケーション エラーが発生しました	NA
3	現在のシステム メーカーはデルではありません	Dell Command Update は、Dell システムでのみ実行できます。
4	CLI は管理者権限で起動されませんでした	管理者権限で Dell Command Update CLI を呼び出します。
5	以前の操作からの再起動が保留されていました	システムを再起動し、操作を完了します。
6	同じアプリケーションの別のインスタンス (UI または CLI) がすでに実行されています。	Dell Command Update UI または CLI の実行中のインスタンスをすべて閉じて、操作を再試行します。
7	アプリケーションは現在のシステム モデルをサポートしていません	現在のシステム モデルがカタログでサポートされていない場合は、管理者にお問い合わせください。
8	アップデート フィルターが適用または構成されていません	1つ以上のアップデート フィルターを指定してください。

表 7. さまざまな入力検証の評価中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
100	コマンドライン パラメーターの評価中に、パラメーターが検出されませんでした	コマンドは、コマンドラインで指定する必要があります。
101	コマンドライン パラメーターの評価中に、コマンドが検出されませんでした	有効なコマンドとオプションを指定してください。詳細については、「 コマンドラ

表 7. さまざまな入力検証の評価中に表示されることがあるリターンコード：（続き）

リターン\エラーコード	説明	解像度
		イン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
102	コマンドライン パラメーターの評価中に、無効なコマンドが検出されました	コマンドとそのコマンドでサポートされるオプションを指定します。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
103	コマンドライン パラメーターの評価中に、重複するコマンドが検出されました	重複するコマンドを削除し、コマンドを再実行します。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
104	コマンドライン パラメーターの評価中に、コマンド構文が間違っていました	必ずコマンド構文「/<コマンド名>」に従ってください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
105	コマンドライン パラメーターの評価中に、オプション構文が間違っていました	必ずオプション構文「-<オプション名>」に従ってください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
106	コマンドライン パラメーターの評価中に、無効なオプションが検出されました	必ず、必須のオプションをすべて指定するか、サポートされているオプションのみを指定してください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
107	コマンドライン パラメーターの評価中に、特定オプションの指定値が無効でした	許容値を指定してください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
108	コマンドライン パラメーターの評価中に、一部の必須オプションが検出されませんでした	コマンドの実行に必須オプションが必要な場合は、そのオプションを指定してください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
109	コマンドライン パラメーターの評価中に、無効なオプションの組み合わせが検出されました	相互に排他的なオプションを削除して、コマンドを再実行してください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
110	コマンドライン パラメーターの評価中に、複数のコマンドが検出されました	/help と /version は例外ですが、コマンドラインに指定できるコマンドは1つだけです。
111	コマンドライン パラメーターの評価中に、重複するオプションが検出されました	重複するオプションを削除し、コマンドを再実行してください。詳細については、「コマンドライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。
112	無効なカタログが検出されました	指定されたファイルパスが存在すること、拡張子の種類が有効であること、SMB、UNC、URL が有効であること、無効な文字がないこと、255文字を超えていないこと、必要な権限があることを確認してください。詳細については、「コマンド

表 7. さまざまな入力検証の評価中に表示されることがあるリターンコード：（続き）

リターン\エラーコード	説明	解像度
		「ライン インターフェイス リファレンス」セクションを参照してください。

表 8. /scan コマンドの実行中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
500	スキャン操作の実行中にシステムのアップデートが見つかりませんでした	システムは最新です。または、指定されたフィルターのアップデートが見つかりませんでした。フィルターを修正し、コマンドを再実行します。
501	スキャン操作の実行中にシステムで使用できるアップデートを判断しようとしてエラーが発生しました	操作をやり直してください。
502	キャンセルが開始されたため、スキャン操作がキャンセルされました	操作をやり直してください。
503	スキャン操作の実行中にファイルをダウンロードしようとしてエラーが発生しました	ネットワーク接続を確認し、インターネットに接続されていることを確認してから、コマンドを再実行します。

表 9. /applyUpdates コマンドの実行中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
1000	アップデート適用操作の結果を取得しようとしてエラーが発生しました	操作をやり直してください。
1001	キャンセルが開始されたため、アップデートの適用操作がキャンセルされました	操作をやり直してください。
1002	アップデートの適用操作の実行中にファイルをダウンロードしようとしてエラーが発生しました	ネットワーク接続を確認し、インターネットに接続されていることを確認してから、コマンドを再実行します。

表 10. /Configure コマンドの実行中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
1500	アプリケーション設定のエクスポート中にエラーが発生しました	フォルダーが存在するか、フォルダーへの書き込み権限があるかを確認してください。

表 11. /driverInstall コマンドの実行中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
2000	高度なドライバー復元操作の結果を取得しようとしてエラーが発生しました	操作をやり直してください。
2001	高度なドライバー復元プロセスが失敗しました	操作をやり直してください。
2002	高度なドライバー復元操作に対して、複数のドライバー CAB が指定されました	ドライバー CAB ファイルは必ず 1 つだけ指定してください。
2003	ドライバー インストール コマンドの入力値として、ドライバー CAB の無効なパスが指定されました	指定されたファイルパスが存在すること、拡張子の種類が有効であること、SMB、UNC、URL が有効であること、無効な文字がないこと、255 文字を超えていないこと、必要な権限があることを確認し

表 11. /driverInstall コマンドの実行中に表示されることがあるリターンコード：（続き）

リターン\エラーコード	説明	解像度
		てください。詳細については、「 コマンドライン インターフェイス リファレンス 」セクションを参照してください。
2004	キャンセルが開始されたため、ドライバーのインストール操作がキャンセルされました	操作をやり直してください。
2005	ドライバーのインストール操作の実行中にファイルをダウンロードしようとしてエラーが発生しました	ネットワーク接続を確認し、インターネットに接続されていることを確認してから、コマンドを再実行します。

表 12. パスワード暗号化の入力の評価中に表示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
2500	暗号化パスワードの生成操作の実行中に、パスワードを暗号化しようとしてエラーが発生しました	操作をやり直してください。
2501	指定された暗号化キーでパスワードを暗号化しようとしてエラーが発生しました	有効な暗号化キーを指定し、操作を再実行します。詳細については、「 コマンドライン インターフェイス リファレンス 」セクションを参照してください。
2502	指定された暗号化パスワードは、現在の暗号化方式と一致しません	指定された暗号化パスワードに、以前の暗号化方式が使用されました。パスワードをもう一度暗号化してください。

表 13. Dell Client Management Service に問題がある場合に示されることがあるリターンコード：

リターン\エラーコード	説明	解像度
3000	Dell Client Management Service が実行されていません	Dell Client Management Service が停止している場合は、Windows サービスで開始します。
3001	Dell Client Management Service がインストールされていません	Dell サポート サイトから Dell Client Management Service をダウンロードしてインストールします。
3002	Dell Client Management Service が無効になっています	Dell Client Management Service が無効になっている場合は、Windows サービスで有効にします。

サード パーティ ライブラリー

次の表に、サード パーティ ライセンスの詳細を示します。

SharpBits v2.1.0

新しい BSD ライセンス (BSD)

Copyright (c) 2007, 2008, sharpBITS.NET

不許複製・禁無断転載。

ソースコード形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、変更の如何にかかわらず、以下の条件が満たされる場合に限り許可されます。

- ソースコードの再配布物に、上記の著作権情報、本条件リスト、下記免責情報が含まれていること。
- バイナリ形式で再配布する場合、上記の著作権情報、本条件リスト、下記免責条項が、配布物に付属のドキュメントなどの資料に含まれていること。
- xidar ソリューションの名称または提供者の名称を、書面による事前の許可なく、本ソフトウェアの派生製品を推薦または宣伝する目的で使用することはできません。

本ソフトウェアは、著作権所有者および貢献者によって「現状のまま」提供されており、明示または黙示を問わず、商品性、特定目的への適合性に対する黙示的な保証（ただし、必ずしもこれらに限定されない）は一切否認します。いかなる場合も、著作権所有者またはその貢献者は、原因または責任上の理論を問わず、また契約行為、無過失責任、不法行為（過失その他を含む）によるものかを問わず、本ソフトウェアの使用から生じる直接的、間接的、偶発的、特殊的、懲罰的、または結果的損害（代替品または代替サービスの調達、使用の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断による損害を含むが、これらに限定されない）について、たとえかかる損害の可能性について知らされていたとしても、一切責任を負いません。

Serialize.Linq (バージョン 1.3.1.0)

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書

バージョン 3, 2007 年 6 月 29 日

Copyright (C) 2007 Free Software Foundation, Inc, <<http://fsf.org/>> 本一般公衆利用許諾書の複製、および逐語的な複製の頒布は許可されますが、本一般公衆利用許諾書の変更は許可されません。

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の本バージョンには、GNU 一般公衆利用許諾契約書の諸条件が含まれています。本書の内容は以下の追加的許可によって補足されます。

0. 追加定義

本書で用いる「本利用許諾」は、GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書のバージョン 3 を指し、「GNU GPL」は GNU 一般公衆利用許諾契約書のバージョン 3 を指します。

「ライブラリー」は、本利用許諾で規定されている著作物を指します。ただし、以下で定義するアプリケーションまたは結合著作物を除きます。

「アプリケーション」とは、ライブラリーによって提供されるインターフェースが使用された著作物です。ただし、ライブラリーに基づく著作物を除きます。ライブラリーによって定義されたクラスのサブクラスの定義は、ライブラリーによって提供されたインターフェースの使用モードで判断されます。

「結合著作物」とは、アプリケーションをライブラリーと組み合わせたり、リンクしたりすることによって生成された著作物のことです。結合著作物が作成されたライブラリーの特定のバージョンは、「リンクされたバージョン」とも呼ばれます。

結合著作物に対する「最小限の対応するソース」とは、結合著作物に対応するソースを意味します。ただし、結合著作物の一部で、かつ単体ではリンクされたバージョンではなくアプリケーションに基づいている部分に対応するソースコードを除きます。

結合著作物に対する「対応するアプリケーションコード」とは、アプリケーションのオブジェクトコードまたはソースコードを意味します。これには、アプリケーションから結合著作物を再作成するために必要なデータおよびユーティリティプログラムも含まれますが、結合著作物のシステムライブラリーは除きます。

1. GNU GPL 第3項の例外

あなたは、本利用許諾の第3項および第4項に従って対象著作物を伝達することができます。その際、GNU GPL 第3項は適用されません。

。

2. 改変されたバージョンの伝達

ライブラリの複製物を改変し、その改変物のある機能が、その機能を使用するアプリケーションによって提供される関数またはデータを参照する場合（実行時に機能が引数として渡される場合を除く）、以下のいずれかに従って、改変されたバージョンの複製物を伝達できます。

a. 本利用許諾に従う場合は、アプリケーションが関数またはテーブルを提供しないときでも、その機能が動作し、機能のどの部分についても目的に適った処理が実行されるよう十分に誠実な努力をしなければなりません。

b. GNU GPL に従う場合は、伝達する複製物に、本利用許諾の追加的許可を適用してはなりません。

3. ライブラリのヘッダーファイルから要素を取り込んだオブジェクトコード

アプリケーションのオブジェクトコード形式が、ライブラリーの一部であるヘッダーファイルからの要素に組み込まれることがあります。このようなオブジェクトコードは選択した条件下で伝達できます。ただし、組み込まれる要素が数値パラメーター、データ構造レイアウトおよびアクセサー、または小規模のマクロ、インライン関数とテンプレート

（長さ10行以下）に限定されない場合は、次の両方を実行する必要があります。

a. オブジェクトコードの個々の複製物に、そのオブジェクトコードにライブラリが使用されていることと、ライブラリとその使用が本利用許諾の対象となることを明記した通知を付します。

b. オブジェクトコードに、GNU GPL と本利用許諾の複製物を添付します。

4. 結合著作物

結合著作物に含まれるライブラリーの一部の改変を実質的に禁止したり、そのような改変をデバッグするためのリバースエンジニアリングを禁止したりしない限り、あなたは自身が指定する条件の下で結合著作物を伝達することができます。ただしその場合、以下のすべてを行う必要があります。

a. 結合著作物の個々の複製物に、その結合著作物にライブラリが使用されていることと、ライブラリとその使用が本利用許諾の対象となることを明記した通知を付します。

b. 結合著作物に、GNU GPL と本利用許諾の複製物を添付します。

c. 結合著作物の実行時に著作権情報が表示される場合は、その中にライブラリーの著作権情報と、ユーザーに GNU GPL および本利用許諾の複製物の所在を示す参照文を含めます。

d. 次の手順のいずれか1つを実行します。

0) 本利用許諾の条項に従い、最小限の対応するソースを伝達します。また、対応するアプリケーションコードを、ユーザーがアプリケーションをリンクされたバージョンの改変バージョンに再結合または再リンクして改変された結合著作物を作成するのに適した形式で、またそれを許可する条項の下で、対応するソースの伝達について GNU GPL 第6項で指定された方法で伝達します。

1) 適切な共有ライブラリーメカニズムを使用してライブラリーをリンクします。適切なメカニズムとは、(a) 実行時、ユーザーのコンピューターシステムにすでに存在しているライブラリーのコピーを使用し、(b) リンクされたバージョンとインターフェイスに互換性があるライブラリーの改変バージョンで適切に機能するものです。

e) インストール情報を提供します。ただし、インストール情報の提供が GNU GPL 第6項で別途義務付けられている場合に限りです。また、かかるインストール情報は、リンクされたバージョンの改変バージョンにアプリケーションを再結合または再リンクして作成された結合著作物の改変バージョンをインストールおよび実行するために必要とされる範囲内に限定されます。（オプション 4d0 を使用する場合は、インストール情報に最小限の対応するソースと対応するアプリケーションコードを添付する必要があります。オプション 4d1 を使用する場合は、対応するソースの伝達について GNU GPL 第6項で指定された方法でインストール情報を提供する必要があります。）

5. 結合ライブラリ

あなたは、ライブラリに基づく著作物であるライブラリ機能と、アプリケーションではなく、かつ本利用許諾の対象外である他のライブラリ機能を1つのライブラリに併存させ、また、そのような結合ライブラリを自身が指定する条項の下で伝達することができます。ただしその場合、以下の両方を行う必要があります。

a) 結合ライブラリに、他のどのライブラリ機能とも結合しておらず、本利用許諾の下で伝達される、当該のライブラリに基づく著作物の複製物を添付します。

b) 結合ライブラリに、ライブラリに基づく著作物が含まれていることと、当該著作物の結合されていない形式の添付場所を示した明確な通知を記載します。

6. GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の改訂バージョン

Free Software Foundation は、改訂バージョンまたは新バージョンの GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書を随時発行します。新バージョンは、その精神においては現行バージョンと同じですが、新たな問題や懸念を解決するために、細部は異なる可能性があります。

各バージョンには区別するためのバージョン番号が付けられています。受領したライブラリーに、GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の任意のバージョン「またはそれ以降の任意のバージョン」が適用されると記載されている場合、その発行済みバージョンまたは Free Software Foundation が発行したそれ以降の任意のバージョンの諸条件に従うことができます。受領したライブラリーに、GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書のバージョン番号が記載されていない場合、Free Software Foundation が過去に発行した GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の任意のバージョンを選択できます。

あなたがライブラリーを受け取ったとき、そのライブラリーに、GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の今後のバージョンについては代理人がその適用を決定できると指定されている場合は、その代理人による任意の番号を承認するという公式声明によって、あなたはそのライブラリーに対してそのバージョンを選択できる永続的権限を得ます。